

利活用検討に係る論点整理

1 議論の進め方

【論点1】 旧赤星邸の価値や継承すべきものは何か？

⇒目指すべき将来像（テーマ・コンセプト）

【論点2】 価値を最大限発揮するために必要な工夫や仕掛けは何か？

⇒保存・利活用に関する基本の方針

【論点3】 具体的にどのような保存や活用を行うと効果的か？

⇒具体的な利活用検討

【論点4】 今後更に整理・検討すべき点は何か？

⇒不足している視点（4、5回目にて議論）

2 論点整理事項

【論点1】

旧赤星邸の価値や継承すべきものは何か？⇒目指すべき将来像（テーマ・コンセプト）

【コメント主旨抜粋】

- ・ 地域における赤星邸の位置づけや歴史的背景
- ・ 建物の雰囲気が凄い
- ・ 建物と庭との関係が大事
- ・ 建物の中から見える庭の美しさ
- ・ 市民にとって良かったというものになること
- ・ 旧赤星邸の歴史的、文化的価値
- ・ 建物、庭園、外塀を含めての歴史的価値
- ・ よい空間であること
- ・ 建物と庭、その佇まいや雰囲気も含め価値あるもの
- ・ これだけの庭の広さとこの規模の住宅がこの状態で残っていること
- ・ 建物と庭の組合せ自体も非常に価値がある
- ・ 限られた使われ方をされていたためミステリアスな部分もあり、この建物の社会的価値の一部でもある
- ・ 使われてきた歴史を踏まえて、ここに建物がある意義
- ・ 木が大きいということ（戦禍や災害、開発にさらされなかったという意味で、社会のあり方やまちの作り方を考える上でヒントになる）
- ・ 平和な時間が続いたから木が大きく育った
- ・ （庭は歴史的な意味合いは低いことも想定されるが）今ある緑をまず大切にする
- ・ 庭は歴史的には暮らしの中で意味を持っていた
- ・ 建物と庭の関係性、建物から見た庭、庭から見た建物
- ・ 建物と庭の一体性
- ・ 建物の中と外の連続性
- ・ 庭とのつながり
- ・ 屋根付きの外のリビング空間
- ・ 半屋外で食事をするというレーモンドが導入した文化（旧赤星邸の藤棚はオリジナルでは可動式のテントがあり、外のリビングとして設計されていた）
- ・ 赤星家の歴史
- ・ 大きな樹木があって中央に心地よい広がりがあるという大きなフレーム

【論点2】

価値を最大限発揮するために必要な工夫や仕掛けは何か？⇒保存・利活用に関する基本方針

【コメント主旨抜粋】

- ・ 歴史的背景などのデータ化
- ・ 建物のほか、緑、外塀など付帯施設を含めた一体的な利活用
- ・ 「赤星家」や「赤星鉄馬」の歴史的価値を検証する仕組みも必要
- ・ 土地のポテンシャルを引き出しつつ収益性を高める取り組み（公園は、整備の時代から活用の時代に替わった）
- ・ 「建築ファン」だけでなく、いろいろな価値観をもつ人を集められるような仕掛け
- ・ 旧赤星邸の歴史的、文化的価値をいかに損なわないで残していくかという観点
- ・ 建物の歴史、利用の歴史を想像できるようになるとよい
- ・ 電線の地中化（東側の通り沿いの背の高い木が活かされれば、東側の通りは他とは違う公園のような通りが変わっていく可能性があるのではないか）
- ・ 利活用するうえで、使い勝手が悪くならないこと
- ・ 建物は歴史的背景や意味合いを読み取り理解してもらえる活用をすること
- ・ 住居環境を害するような、同時に多くの人々が集まるような使い方ではないこと
- ・ 人々が三々五々集まっては帰るような利活用
- ・ 建物の保存については徹底的に行い安全性も担保する
- ・ 見学者が建物を散策する時の目障りにならないような展示等の工夫
- ・ 庭と建築と相まってどの様に使われていたのかを考えて、これからの時代のなかで意味を持たせていく
- ・ 「展示」とすると時が止まるが、レーモンドの建築に対する思いを反映し、庭を含めた生活シーンを見せ、これを生かした活動をすることで「展示」が生きてくる
- ・ 「歴史館」のような展示にならないような工夫が必要
- ・ 市民に活用してもらおう上で、記憶とか愛着にもつながる視点
- ・ 庭の中で見るのと、建物の中から眺めるのとを大切にしながら庭を整えること
- ・ 庭につながる開口部ももっと開放されても良いのかもしれない
- ・ 庭は地域のリビング、市民のためのリビングという位置づけを大事にする方向性

【論点3】

具体的にどのような保存や活用を行うと効果的か？⇒具体的な利活用検討

【コメント主旨抜粋】

- ・歴史が俯瞰できるような展示機能のようなものを用意する
- ・レーモンドの建物自体は建物の中を見て回るということだけで成立するようにしておき、時々そこでイベントなどが開かれるような形
- ・増築した建物のどちらかで、歴史の展示を補うように作りこむというのもあるかなと思う
- ・レーモンドの建築ギャラリーのようなもの
- ・赤星家の歴史や修道女会の歴史などを昭和史＝現代史として展示する
- ・この空間を活かして、庭でもあり建物の一部である場所でお茶を飲むというのは、とても良いプログラムになるし、良い仕掛けになると思う
- ・藤棚のテラスなどや庭を見て、カフェをメインに、ということではないが、お茶を飲める機会を設ける
- ・カフェのような近所の方々集まるコミュニティの場

【論点4】

今後更に整理・検討すべき点は何か？⇒不足している視点

【コメント主旨抜粋】

- ・増築された建物も利活用の検討を行ったほうがよい
- ・道路側からどう建物を見せるか、建物に入ったときにどう庭園を見せるか
- ・オープンスペースとして開放するとなると、建物の管理や緑や空間の管理をどうするか
- ・樹木の状態について具体の検討が始まる前に樹木医に見てもらうなども必要なのではないか
- ・どういう資産価値があるのか
- ・アントニン・レーモンドの建物だけを保存すべきなのかという議論も必要
- ・「夫妻」でどのように内部空間を作っていたのか
- ・庭について自然の形での保存、あるいは有効活用など様々な意見があるがそのようなバランスをどう捉えるかの検討が必要
- ・何が大事なのか、どの時点を活かすのかが課題
- ・どの段階の木を残すかというのは美的な問題になってしまい結論が出なくなる。都市史的な観点から木の存在を見た方が正しい評価ができるのではないか
- ・保存よりの意見と利活用寄りの意見の両方あって、現時点では両方活かせるような形で検討を出發するのが良いと思う
- ・展示については調度との一体化など十分な議論が必要
- ・接收時に改変された部分が景観に大きく影響しているため、そこをどうするかは議論となる
- ・情報発信が重要で、そのコンテンツを手段において活用することを考えるのが大事

